



発行所 国鉄労働組合 盛岡地方本部
発行 齋藤庄司
編集者 中堤聡司
TEL 019-622-5021
メールアドレス numori@poem.ocn.ne.jp

2010.7.10 第1423号

拡大キャッチコピー

「新しい仲間づくりを皆の力で」
「一緒に解消しませんか、あなたの疑問。加入ってます」

JR不採用問題 岩手県内報告集会

雇用問題に全力をあげる

馬淵茂帯広闘争団団長が謝意と決意

地方本部は、第78回臨時全国大会でのJR不採用問題の「政治解決案」の受諾、5月18日の政府の鉄道・運輸機構に対しての和解協議の指示を受け、帯広闘争団による報告集会を企画し馬淵茂団長が来県し実施した。(6月28日に最高裁で和解成立)

地区集会和各単組等へのお礼行動は、6月15日盛岡、16日一関、17日北上、18日宮古で展開され、集会には多くの支援単組の仲間を協力を得る中、4地区で約300人が参加し、馬淵団長が今日までの支援に対する謝意と、残された雇用問題の解決に全力をあげて行く決意を述べた。また、各地区では社民党、地区労センターなどの来賓の方々からも挨拶を頂いた。盛岡での集会内容を掲載し報告とする。



今日までの支援に対する感謝となおの支援を要請する馬淵団長(盛岡会場)

盛岡・一関・北上・宮古の 集会に多くの仲間が参加

岩手労働福祉会館での盛岡地区集会和は18時から始まり、最初に主催者を代表し齋藤地本委員長が、「JR不採用問題、24年目で皆さんの支援のもと

解決の目的がたつた。いわれなき差別、家族を含め長い闘いだった。国鉄改革で100人以上の職員が自殺に追い込まれるなど厳しいものがあった。

長い闘いの中で不団結も指摘されたが、4者・4団体結成で団結した取り組みの中で、4月9日の最終解決案が出され、国労も26日の臨時全国大会で受け入れを確認し今日に至っている。現在、最高裁で弁護士が最終解決にむけ努力中である。雇用問題が残されておき、今後も努力をしていく。皆さんの長い間のご支援に本当に感謝する」と述べた。

当面の主な日程
7月14日(青森) JR不採用問題青森地区報告集会
7月15日(八戸) 同・八戸地区報告集会
7月17・18日(東北町) 同

日本貨物協団結キャンペーン
7月19日(栗石) 第10回地本ソフトボール大会
7月28・29日(伊東) 第79回定期全国大会
7月31日(盛岡) 地本組織・教団部長会議

続いて、闘いの報告に立った馬淵茂帯広闘争団団長は、「当事者63人が解決をみることなく亡くなっている。23年余、不当な差別を許さず今日まで闘ってきた。岩手からの支援米、久慈での子ども達のサマーキャンプなどに感謝したい。団員の平均年齢は57歳、最高が63歳、若い人で49歳だ。4者・4団体を中心

に雇用・年金・解決金の要求を掲げ闘う中で、昨年の高裁判決の南裁判長の「この判決を契機に早期解決を望む」という異例の発言、昨年の政権交代で政治での早期解決をという流れが作られたと思っっている。今は6月の28日か29日の最高裁での和解調印に向けての最高裁で話し合いが進められている。雇用問題が最大の問題として残っているが、もう後戻りはありません。解決に向けて全力で進んでいきたい。地域の仲間にかえしていききたい。全国の仲間を支えられ、これ以上のないと底の生活をしてきた。最後の勝利解決まで頑張りたい。解決の暁に

権を支え、働くものの力で福祉型社会を引き継いでいくことが大切だ。参議院選挙では、選挙区は伊沢昌弘氏、比例代表は吉田忠智氏の取り組みを要請する」と、小原社民党岩手県連合代表も、「不採用問題は、歴史、労働運動的にも極めて大切な闘い。国が労働者の首を切った事実。それが小泉行革、派遣、首切りと続いた走りとなっている。今後もともに闘っていくことを確認したい。沖繩・普天間問題で連立を離脱したが、平和なくして暮らさず。この心をつかり胸に刻んで運動を進めていきたい。連立時の合意事項には努力していく。参議院選挙、社民党への支援を要請する」と激励と支援を訴えた。

佐々木睦美さん優勝(北上工務分会)

80人の参加で第15回地本ゴルフ大会

15回目の地方本部ゴルフ大会が、6月8日に安比ゴルフクラブで80人が参加し開催された。

当日は好天に恵まれ、8時10分過ぎから開会式を簡単に、八幡平、岩手山、竜ヶ森、十和田の4コースに分かれ、8時30分から21組がそれぞれ順次スタート。15時過ぎには全員のプレーが終了、引き続き表彰式、齋藤委員長の挨拶に続き、表彰に移り用意された景品が多く組合員に

花巻市議選挙 7月18日公示・25日投票
当選にむけ支援を
阿部一男氏(組織内)へ

組織内候補、阿部一男氏が9度目の当選を目指し立候補を予定している花巻市議会議員選挙(定数32)が7月18日公示、25日投票で実施される。



阿部予定候補は、「だれでもが安心して暮らせる花巻に」を基本に①保健・医療・高齢者の福祉充実②食と地球環境を守る農林業に光を③平和憲法を花巻市政に活かし、格差のない社会を、等を訴え、精力的に運動を展開している。当選にむけ花巻市在住、北上地区協の組合員を中心に友人・知人への働きかけなどの支援を強化している。

事故・技術継承等で意見 問題点は交渉に活かす

「東日本本部電気職場交流会」

6月20日、21日、仙台市の作並温泉で、第22回東日本本部電気職場交流会が91人(盛岡4人)の仲間が参加し開催されました。

交流会は、地元の仙台地方本部、同地本電気協議会代表から歓迎の挨拶、松井東日本

本部書記長の情勢報告の挨拶を受け、中沢東日本電気協議会議長が、「安全問題」「コンプライアンス問題」「組織拡大」問題の報告と職場実態から検証し「メンテナンス体制の改善」提案への説明要求と結びつけると分科会のテーマを提示されました。こうしたことを今後行われる「メンテナンス体制の改善」提案に対し、交渉に活かし、粘り強い交渉を行って行かなければならないと集約しました。

交流会で浮き上がった問題点を整理し、今後地方提案されるであろう「メンテナンス体制の改善」提案へ向けて行かなければなりません。地本電気協議会副議長 盛岡電気分会 浮中明

6月28日、JR不採用問題の金銭部分が、最高裁で鉄道・運輸機構側と和解が成立した。国策として行われた分割民営は、後に中曽根元首相が「総評を崩壊させようと思つたからね。国労が崩壊すれば、総評も崩壊する」ということを明確に意識して(不当労働行為)「やった」と、公言した。国鉄の分割・民営化は、巨額債務の解消が目的であったはずであるが、その影に国労を潰すことが、目的だったことを明確にした。1987年4月、JRが誕生するまで、国労を潰すためにマスコミも含めて揺さぶりがかけられ、組織を動揺させ混乱を起こすために、尖兵的に動いた人達も多くいた。現場にいた組合員は「昨日の友は、今日の敵」というように、身近にいる人が次々と脱退して行き、人間不信が満ち、人間関係が最悪になり、誰を信じて良いか解らなくなった。JRに採用された国労組合員に対して、あらゆる差別がJR各社の中でされた。地方・中央労働委員会闘争や裁判闘争、振り返れば限がない闘いの連続だった。6月15日から18日まで帯広闘争団の馬淵団長と岩手県内のお世話になった支援共闘廻りと各地区集会和を開催して24年に及ぶ支援へのお礼をしてともに歩いた。各地での政治解決の報告に対し「長い闘いであつたが、本当に良かった」と我がことのように喜んでいただいた。四半世紀に及ぶ闘争団・家族の筆舌に尽くせぬ闘いと、差別にさらされ踏ん張ったJRに働く組合員の過ぎ去った日々は、言い尽くせなく取り戻せないが、国労がこの闘いで得た多くの物を、今後の運動でしっかりと伝えて行きたい(庄)

「総評を崩壊させようと思つたからね。国労が崩壊すれば、総評も崩壊する」ということを明確に意識して(不当労働行為)「やった」と、公言した。国鉄の分割・民営化は、巨額債務の解消が目的であったはずであるが、その影に国労を潰すことが、目的だったことを明確にした。1987年4月、JRが誕生するまで、国労を潰すためにマスコミも含めて揺さぶりがかけられ、組織を動揺させ混乱を起こすために、尖兵的に動いた人達も多くいた。現場にいた組合員は「昨日の友は、今日の敵」というように、身近にいる人が次々と脱退して行き、人間不信が満ち、人間関係が最悪になり、誰を信じて良いか解らなくなった。JRに採用された国労組合員に対して、あらゆる差別がJR各社の中でされた。地方・中央労働委員会闘争や裁判闘争、振り返れば限がない闘いの連続だった。6月15日から18日まで帯広闘争団の馬淵団長と岩手県内のお世話になった支援共闘廻りと各地区集会和を開催して24年に及ぶ支援へのお礼をしてともに歩いた。各地での政治解決の報告に対し「長い闘いであつたが、本当に良かった」と我がことのように喜んでいただいた。四半世紀に及ぶ闘争団・家族の筆舌に尽くせぬ闘いと、差別にさらされ踏ん張ったJRに働く組合員の過ぎ去った日々は、言い尽くせなく取り戻せないが、国労がこの闘いで得た多くの物を、今後の運動でしっかりと伝えて行きたい(庄)

